



## 校長室 だより

平成30年 2月 5日

尼崎市立常陽中学校

校長 小谷 豪郎 No. 14

## 2月:如月:立春です!

昔から、1月は往(い)ぬる、2月は逃(に)げる、3月は去(さ)る、といわれ、新年を迎え時間を大切にしないと1年の4分の1があっという間に過ぎてしまう、という戒めだったようですが、本当に時間の経つのが早く感じます。時間の経過は年齢に比例して感じ方が違うと何かの本で読んだことがあります。同じ1日でも20才の頃が1/20に感じれば、40才になると1/40ということだそうです。1日1日を大切に生きていきましょう。

さて、いよいよ平成30年度も残すところあと2ヶ月です。卒業式まで36日、そのうち登校するのが、24日です。

3年生の皆さん、入学以来3年間の中学校生活を振り返り、やり残したことはありませんか? 過ぎてしまったことは変えることはできません、しかし、これからのことはいくらでも変えていけます。夢を夢で終わらせず、実現する努力を日々続けていきましょう。

暦の上では『立春』を迎え、春の兆しが現れてくる頃になりました。春風のことを「東風」と呼びます、これはこの季節の発想が中国から渡ってきた暦の名残で、春は東の方角を司るために東風と呼ぶようになりました。でも、春風とは正確には、南から吹く暖かな風で、その中で一番強く吹く風を『春一番』と呼ぶようになりました。これは元々能登や志摩の以西、壱岐の島の漁師たちが呼んでいた風の名だったそうです。それが、今では全国的な言葉として使われています。

『春一番』と言えば、私と同世代の方々が思い出すとしたら、雪解けの水が川になって流れていき、土手にはツクシが顔を出し始める、といったいかにも春が待ち遠しかった、という風景をうたった歌がありました。残念ながら、著作権の関係で詳しくは紹介できません、探して聞いてみてくださいm(\_ \_)m

## チーム常陽の活躍

第72回 兵庫県郡市区対抗駅伝競走大会  
尼崎市代表：並川颯晟

第15回 契沖顕彰短歌大会  
契沖賞 平野真流、植田航羽、竹谷花菜

## 校名と新・スローガン



皆さんはすでに気がついておられると思いますが、開校当時171号線沿いにスローガンが掲げられていました。長年の雨風により劣化して無くなっていましたが、今回、新たに設置されました。

防災訓練の日に育友会と生徒会でお披露目の会を予定していましたが、あいにくの雨で訓練が体育館になってしまったので残念でしたが披露の会が中止になってしまいました。



学校名をアピールすると共にこのスローガンの下、チーム常陽として学習に行事に部活動に一生懸命に取り組んでいきましょう。

今回の設置には、育友会の橋本会長さんがお仕事の機材を使って日が暮れる中、丁寧に付けてくださいました。どこかで顔を合わせる機会があったら心から感謝の気持ちを込めてお礼を言ってください。

## 「道徳公開授業・新入生説明会」

1月20日(土)に土曜参観があり道徳の公開授業が行われました。この公開授業は、新しい学習指導要領から「道徳」が特別な教科として扱われるようになることを踏まえてと、以前から心の教育の一環として、中学校での道徳の様子を地域の皆様に見ていただき、学校と連携協力して子どもたちを健全に育てていく、そんな取組の一環として毎年実施しています。

そして、中学生の姿を新1年生とその保護者の方々に直接見ていただき、その後に入学説明会を開催いたしました。本校の校区は徐々に子どもの数が減少し、創立当初に1学年8~9組でスタートしたのが、来年度は全学年が3組と市内最小規模の中学校となり、教員の数もまた減少します。

## 皆も知ってる? まど・みちお

こんな楽しい『詩』がありました。※著作権の関係でここには掲載できませんので内容について説明だけ掲載させていただきます。……「おならは えらい」という内容の作品です。

「おなら」の音を「あいさつ」として捉え、聞いた人たちには「こんにちは」であり「おなら」をした人には「さようなら」でもあり、両方にきちんとあいさつをしている。あいさつは、大切なんだよと幼い子どもたちに解りやすく伝えたかったのではないのでしょうか。そして、そのあいさつは「音」なので話すことばが違っても世界中の人が理解できる。国によって違いは無いんだよ、世界中の人間はみんな同じだよ、ということをとってもユニークな発想で伝えたかったのではないかと思います。

有名な童謡「ぞうさん」や「1年生になったら」を作られた方です、ぞうさんの歌詞にも深い意味があり、長い鼻を他の動物にからかわれた子象が、お母さんと同じだよって言われて安心した。という心温まる思いが込められているそうです。

### 【今月の言葉】

『 断ち切る勇氣 続ける根気  
願うところが 道をつくる 』

改めるべきところ、続けるべきところ  
正しい判断と こうありたいと思いつけることが  
望んだ明日に近づく一歩となる